

## 平成5年度R&Dに採択された個別研究課題

利用幹事

平成5年度R&Dについて要求のあった個別研究課題SGを、利用系幹事と共同チーム利用系リーダーサブリーダーが各項目について研究内容、従来の経緯、昨年度末に行われた評価を基にして検討した。研究内容が光学素子、検出器にかかわるものはR&Dのそれぞれの項目で検討し、また、高輝度光科学研究センターで進めている項目にかかわるものはセンターで検討してもらうこととして、個別研究課題としては以下の項目を進めることにした。

A- 6	極小角X線散乱SG	極小角散乱ゾーンプレート
A- 10	粉末回折SG	放射光粉末回折の長尺水平平行スリット
A- 12	高温SG	超臨界状態測定用X線回折装置
B- 3	分析SG	極小ビーム強度モニター
C- 1	生体高分子（結晶）SG	生体物質の構造研究のためのユーザーフレンドリーなソフトウェアシステムの開発
C- 7	X線ホログラフィーSG	生物試料のホログラフ観察における最適波長の検討
D- 1	軟X線光化学SG	イオンエッチングSiC回折格子

資料

※なお上記の採択に先だって平成5年R&Dの申請について、SG世話人にお送りしたものを参考のために以下に掲載しました。

平成5年6月28日

SG世話人各位

SPring-8利用者懇談会  
利用幹事

## 平成5年度利用R&D課題について

5月27日のSPring-8利用者懇談会設立総会で、共同チーム利用系リーダー大野氏から報告がありましたように、本年度の利用系R&Dの予算総額は約2億円のみ（共同チーム利用系が使用する分を含めて）です。これを、既に建設フェーズに入っている先行ビームライン関係及び基幹チャンネル関係に加えて、光学素子、検出器、その他の個別研究課題に配分し、有効なR&Dを実施しなければなりません。SGが参加・分担できるのは、光学素子、検出器、個別研究課題ですが、予算総額から判断して、配分される額に多くは望めません。そこで今年度は、今までR&Dを行って一定の成果が上がっておりどうしてももう一年間継続する必要がある課題、又は緊急にR&Dに着手する必要がある課題に絞って募集することになりました。

以上の条件に合うR&D課題をお持ちのSGは、

1. 課題名
2. R&Dの必要性和実施内容
3. 予算

をA4（40字／40行）1ページにまとめて、7月15日（水）までに利用幹事にでお送り下さい。

なお、各SGから提案された課題について、利用幹事及び共同チーム利用系担当者が、昨年度行われた成果報告に対する評価結果等を勘案して配分を決定する予定です。